

Q

食物アレルギーについて教えてください。

A

医学は日々進歩を続けています。いままでそれがベストと考えられていた治療方法が180度変わってしまうことも稀ではありません。例えば、傷を治療する際、消毒をしてはいけなく、ラップなどで覆い乾燥させない湿潤療法が主流となりました。

また、風邪に抗生剤を使わない事も常識となっています。同様に食物アレルギーに対する考え方も変わってきました。

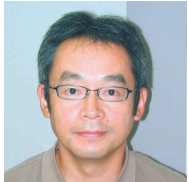
少し前まで、食物アレルギーにならないようにするために、次のような指導をしていました。

1. 母親自身あるいは父親、兄弟がアレルギーの病気を持っている場合、母親は妊娠中の食物(卵、牛乳等)を制限したほうが良い。また、出産後母乳を与える場合、母親は食物制限をする。
2. 通常5か月から開始する離乳食の開始時期をなるべく遅らせた方が食物アレルギーの発症を予防することができる。
3. 血液検査で抗体陽性の食物は除去する。血液検査をしてIgE抗体というものを検査することで、それぞれの食べ物に対するアレルギーの有無を検査することができます。

ところが最近の研究により、以上1から3の指導は見直されています。

赤ちゃんが食物アレルギーになるには、元々アレルギーの素因があったところに、食べ物の成分が体の中に入って抗体を作る(感作という)からです。その経路はまずは胎盤を通して胎児に、次に生後母乳を飲むことで体に入ってくると考えられていました。でもこれらは研究によって否定的です。現在注目されているのが、皮膚を通しての感作です。口の周りの湿疹から体に侵入します。ですから顔の湿疹はなるべくきれいにしておいたほうが良いでしょう。

治療も変わりました。血液検査で抗体陽性だった食べ物はとにかく避けるよう指導しました。しかし、検査が陽性でも食べて問題がないこともあり、安全に食べることができる量を、負荷試験(実際に食べ物を食べて、食べることでできる限界の量を知る)を行って決定し、食べることで食物アレルギーを治療するという考えが浸透しつつあります。



お答え  
むかわクリニック  
院長 務川 靖 先生

雑記

食物負荷試験は安全期するため、入院をして行う場合もあります。